

# さくらだより

vol. 63

2026年3月20日発行



## 伊藤 寿雄

工事部 部長

2025年、北海道。マイナス15度の極寒で、伊藤寿雄はこれまでにない重圧と対峙した。そこは発注者の業務支援を担う立場として、顧客と同じユニフォームを着用し、そのチームの一員として動く特殊な現場だった。貫いたリーダーとしての矜持と悔しさを胸に、組織と共に成長を誓う、ある部長の1年の記録に迫る。

### 社長の魅力に惹かれ、個人から組織の長へ

2018年5月、伊藤は個人事業主からさくら株式会社へ転身した。社長である高橋の「突き進む力」と、人をその気にさせる「言葉の力」に惹かれたからだ。入社当初は、個人事業主時代の「自分の役割はサポートだ」という意識が抜けず、組織の一員として踏み込めずにいた。だが、入社後に重ねた高橋との対話が、伊藤の

意識を根底から変えた。「自分たちだけではなくて、社員みんなが幸せになる会社にしよう」。

高橋のその思いを聞いたとき、伊藤は、組織を背負う人間として「工事部のトップになる」と覚悟を決めた。高橋と同じ船に乗り、舵取りの一翼を担いたい。そうして実績を積み重ね、有言実行を果たしたのだった。

そして2025年、伊藤はその年において最大規模となる現場へ向かうことになる。

### 極寒の北海道で挑んだ大規模プロジェクト

舞台は北海道。国の重要プロジェクトであり、伊藤は発注者側のチームの一員として現場を動かす特殊な役割を担った。協力業者を含めて総勢40名近い人員という大所帯だ。着用するのは自社のユ

ニフォームではなく、顧客の作業着。不慣れな環境の中、求められるのは「手伝い」ではなく、顧客と同じ視座での管理業務であり、プレッシャーは計り知れなかった。

1月の着工から、現場は雪との戦いだった。搬入されたパイプは一晩で雪に隠れて場所すら分からなくなるため、まずは雪に埋もれた資材の掘り起こしから、その日の作業が始まるのだ。

厳しい工程と寒さが続く中で、現場の士気を維持することは容易ではなかった。伊藤自身、心身ともに限界に近かったが、弱音は一

切見せない。「リーダーの不機嫌や疲れは伝染する」と知っているからだ。誰よりも早く現場に入り、努めて明るく挨拶をするよう心がけた。不安を取り除くため、各班のリーダーと毎日膝を突き合わせて対話も重ねた。チームの士気を守り抜くこと。それが、伊藤の戦いだった。

### 「段取り9割」の重みと、仲間と乗り越えた経験

11月、無事に竣工し利益も確保したが、伊藤の胸には悔しさが残った。常日頃「段取りが9割」と意識して仕事に臨んできたが、それでも準備不足や逆算の甘さを痛感したからだ。顧客の要望に応えるためのデータ管理やツールの操作において、顧客自身に教えを請う場面もあり、プロとして相手の手を煩わせてしまった事実は歯がゆかった。

苦境の中、専務の千葉が北海道

まで駆けつけ、最後まで現場に立ち続けてくれたことは救いだった。「苦業を共にする」という言葉通り、辛さも一緒に味わってくれた仲間の存在。頼れる味方がいる心強さが身に染み込んだ。

専務への感謝とともに、伊藤の胸には「もっと自分に力量があれば」という悔しさが残った。だがその想いは、技術者として、そしてリーダーとしてさらなる成長を誓う原動力へと変わっていく。

### 学びの場を広げ、知識と技術の集団へ

4月に入社する新入社員を迎えるにあたり、伊藤は「ベテランも若手も関係なく、互いに教え合い高め合う組織をつくりたい」と考えている。

そのための場として、会社が新たに設立したのが教育機関「さくらアカデミー」だ。伊藤自身も「自分も含めてもっとスキルアップしたい」と、ここで学び直す意欲を

見せる。全員が体系的な知識という共通言語を持つことで、経験年数に関わらず切磋琢磨できる土壌が育まれていくに違いない。

知識と技術、そして人間力を兼ね備えたプロ集団へ。伊藤は自らが先頭に立ち、学び続ける背中を示していく覚悟だ。

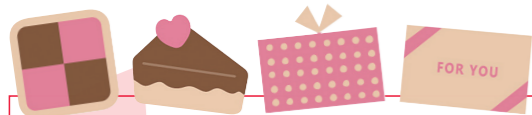
過酷な現場を越え、自身の課題と真摯に向き合った伊藤。個人の成長を組織の強さへ変える挑戦は、さくらの新たな一歩となるだろう。



▲ご家族でのお写真

### 企業情報

設立年：2012年4月  
年商（さくら株式会社）：12.8億円  
年商（さくらグループ全体）：17.2億円  
※ 2025年3月決算時点



絶賛  
成長中!

# 新入社員の 今に迫る



ほりうち かえで  
製造部 堀内 楓さん

## 成長したと感ずる点

### 知識の習得

入社当初は、作業内容や工具の使い方、名称まで知らなかった状態でした。しかし、日々業務にあたる中で覚えることができ、知識として蓄えることができています。

## この1年で特に印象に残ったこと

### 率直な助言

入社して4か月目と月日は浅いですが、今まで働いてきた会社と比較すると、率直な意見やアドバイスをいただけるので、自分ができていること、できていないことがはっきりするのでとても勉強になります。

## 2年目の目標と意気込み

### できることを増やす

扱う材料の名称とサイズをきちんと覚えることと、様々な面でスキルアップをして自分にできることを増やしていきます。

入社2年目を目前とする芳賀さんと堀内さん。今回は、この1年でできるようになったことや2年目の意気込みを伺いました。

上司である八巻様からのメッセージも必見です!



はが あやか  
製造部 芳賀 彩花さん

## 成長したと感ずる点

### 自ら手を挙げ、新たな技術を習得

この1年間で、できる作業が着実に増えてきたことに手応えを感じています。当初は上司から指示された作業への対応だけでしたが、しだいに自分から「この作業に挑戦したい」と言えるようになりました。特に仮止めは、狭い場所や厳しい体勢での作業が求められるため難易度が高いのですが、その分うまく固定できたときの達成感はひとしおです。

## この1年で特に印象に残ったこと

### 先輩のありがたい助言とものづくりの達成感

職場は非常に相談しやすい雰囲気です。先輩方は入社当初から積極的に声をかけてくださり、実演を交えた的確なアドバイスや、経験に基づいた助言をくださいます。昔の道具は今より重く、安全装置も少なかったとのこと。このような話を聞くたび、現在の恵まれた環境にいることを再認識しています。

## 2年目の目標と意気込み

### 図面の見方を覚え、自ら動ける技術者へ

2年目の目標は、溶接の資格を取得すること。現在は休憩時間などを利用し、先輩方に指導していただきながら、練習に励む毎日です。溶接棒の扱いなど難しい点も多いですが、確実に技術を自分のものにできるよう頑張ります。そして将来的には、ただ指示を待つのではなく、図面を読み解いて、自ら段取りを組んで作業を回せるような技術者へなりたいと思います。

## 堀内さんの成長

入社時から変わらず真面目で、努力を継続できるところが強みです。技術習得が難しい仕事ですが、堀内さんは入社以来、毎日昼休みの時間を自ら進んで溶接の練習に充てています。その継続力には本当に感心しています。

## 堀内さんへのエール

日々の努力を続けていけば、必ず一人前の技術者になれます。1日も早く製造部を牽引するスター選手になってください。真面目で聡明な堀内さんなら、さらに上のステップへ進めると確信しています。

## 芳賀さんの成長

入社当初は少し控えめな印象でしたが、先輩たちの声かけもあり、今では周囲と円滑なコミュニケーションを取れるようになりました。配管の養生という地道な作業も、非常に強い責任感を持って丁寧にやり遂げてくれています。

## 芳賀さんへのエール

縁の下の力持ちとして、与えられた仕事にコツコツと取り組む姿勢に感謝しています。すでに製造部の大切な戦力です。体調管理に気を配りつつ、今後は新しいことにも積極的に挑戦してほしいと願っています。



製造部 工場長  
やまき まこと  
八巻 誠さん